

「さぞんていあ」の由来：平成12年6月創刊時、インパクトがあり、親しみやすいものを…と考えた結果、南の(サザン)・ボランティア、この2つの言葉をあわせて名付けました。

中途失聴・難聴者サークル“うさぎ” 設立10周年記念講演会が開催されました

去る9/3(土)に“うさぎ”の設立10周年記念講演会と手話劇公演が開催されました。講演会では「障害者差別解消法」と「合理的配慮」とは」といったテーマで、弁護士の塗木先生より、今年4月に施行された障害者差別解消法について合理的配慮とはどのようなことをするのかという詳しい説明がありました。参加者からは多くの質問があがっていました。また、講演会後は“うさぎ”による手話劇「シンデレラ」が行われ、日頃の練習の成果を皆さんに観ただけのよい機会となったようでした。



手話を交えながら「シンデレラ」を演じています。

今年度、“うさぎ”はNHK厚生文化事業団「わかば基金」からの支援を受け、聴覚障がい者用の補聴器と人工内耳者の音声をクリアに聞こえることができる「磁気ループ」の購入ができ、メンバー同士のコミュニケーションもとやすくなりました。磁気ループの購入により活動の範囲がますます広がるのではないかと期待しています。

中途失聴・難聴者サークル“うさぎ” メンバー&ボランティア募集!!

難聴者と健常者と一緒に手話劇の練習をしませんか?手話がわからなくても大丈夫。みんなで楽しく覚えましょう。※女性に限らせていただきます。

問合せ先 南区社会福祉協議会 TEL 554-1039

車いすの貸出しを行っています

南区にお住いの人または通勤・通学する人や区社協の会員(正会員・賛助会員)である人・団体などを対象に、高齢者や障がい者、その他必要な人に車いすの貸出しをしています。また、学校や各種団体が実施する研修会、福祉教育など(営利目的は除く)でも利用できます。まずは、お電話にてお問い合わせ後、窓口にお越しください。



毎日が安心 万一も安心
みまもりさん & かけつけさん

救急時・非常時にボタンひとつですぐに駆けつける **緊急通報サービス**

駆けつけ対応! 協力員は不要! 「基本料金」「かけつけ対応」を含んで月々ご利用料金は **1,880円**

鍵お預かり可! 年齢制限なし!

●初期登録費:2,000円(初回のみ/税別)が別途必要です。●サービスご利用には固定電話が必要となります。

&and 西部ガスリビング みまもりさん

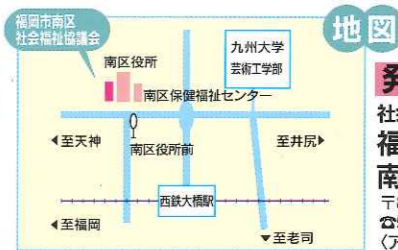
お問い合わせお申し込みは **0120-987-567**

編集後記

少子高齢化の進行に伴い、様々な問題が生まれるのと同時に、それを解決するための様々な取り組みも生まれています。時代によって社協に求められるものは少しずつ変わっています。しかしながら、社会課題を生み出す一因の「孤立を防ぐ」目的での活動はこれからも続けていく必要があるでしょう。



※このキャラクターはNPO法人まるのデザインです。



発行

社会福祉法人
福岡市南区社会福祉協議会
南区ボランティアセンター
〒815-8501 南区塩原3-25-1 南区役所別館
☎554-1039 FAX 557-4068
〈アドレス〉minamiku@fukuoka-shakyo.or.jp
●福岡ファミリーサポートセンター南支部 ☎511-4746

子どもたちが高齢者の困りごとと解決に大活躍 ～宮竹校区「孫の手サービス」～

8月17日、中学生44名、小学6年生14名が参加して、高齢者宅等の草取りを子どもたちがお手伝いする「孫の手サービス」ボランティア活動が行われました。今年で6年目を迎えるこの活動は、地域の福祉課題等について話し合う校区福祉座談会の中で、高齢者の悩みごとを解決するお手伝いが何かできたらという意見が出たことがきっかけとなり、中学生に担い手として関わってもらおうかたちでスタートしました。



小学生・中学生・地域住民が班をつくり、それぞれの活動先で頑張りました。

昨年12月には、はじめて宮竹小学校6年生にも募集をかけることになり、小学生と中学生、そして地域住民と一緒に活動を行うようになりました。「この活動を通じて、小学生と中学生の交流が生まれ、小学生が卒業して中学生になってもボランティア活動に自然と参加してもらえるようになれば嬉しい」と宮竹校区社協の櫻井会長は話していました。



頑張った後は、皆で一緒にそうめん流しを楽しみました。

参加した子ども達からは、「この夏、何かチャレンジしてみたいとボランティア活動に参加した」、「高齢者に喜んでもらうことができ、役に立てて良かった」、「夏休みの素敵な思い出になった」という声が聞かれました。

活動後には、地域のボランティアの方々で作られた宮竹校区名物の五十川めしや野菜のてんぷら、流しそうめんがふるまわれ、子供たちもとても喜んでいました。

宮竹中学校の増川校長は、「小学生、中学生と地域との交流は、大規模な災害が起こった時にもとても大きな力になる」と、学校と地域の連携の重要性について話していました。

「孫の手サービス」のようなあたたかい取り組みが、今後南区内でさらにひろがっていくことを願っています。